

としょかんだより (R5.8月増刊号)
 発行：大分市民図書館
 (J:COM ホルトホール大分内)
 TEL: (097) 576-8241
<http://www.library.city.oita.oita.jp/>



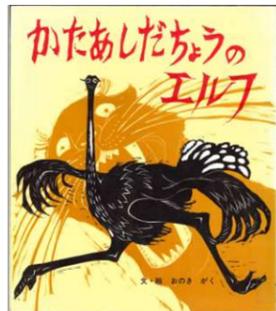
図書館職員が選ぶ本特集

図書館職員しよくいんの思い出の本や、おすすめの本をひとり一冊いっさつしようかい紹介します！
 夏休みにぜひ読んでみてくださいね♪



『十五少年漂流記』
 ジュール・ベルヌ/作
 瀬川 昌男/訳
 [集英社]

十五人の少年たちが無人島でサバイバル生活。知恵や勇気をふりしぼり、力を合わせて困難に立ち向かっていきます。私も十六人目の少年になって、「ワクワクドキドキ」。読み終わるころには、友だちと「まちなか探検」をしていました。小学生の時に出会ったとても思い出深い本です。



『かたあしだちょうのエルフ』
 おのき がく/文・絵
 [ポプラ社]

主人公は大きなだちょうのエルフ。草原では人気者のエルフでしたが、みんなを守るためにケガをして動けなくなってしまいます。力をふり絞って闘うエルフの姿は、子どもたちに友情や勇気の大切さを伝えてくれます。イラストも力強く、大人になってもう一度読み返したい1冊です。



『ほくは野球部一年生』
 サトウハチロー/著
 八木信治/画
 [岩崎書店]

通っていた小学校の図書室に作者のシリーズがずらっと並んでいて、書き出しのテンポの良さに魅かれて全て読破したはず、と今でも思います。落語や講談のようにつらつらと、複雑な人間関係や伏線回収などもなく、元気な「昭和の下町」が描かれています。



『しずかな夏休み』
 キム・ジヒョン/作
 [光村教育図書]

この本は、とてもおすすめです。なぜなら、この本には「ことば」がありません。絵「だけ」の本だからです。絵だけですが、少年の夏の一日をとて印象的にあらわしています。まるで絵本の中に入り込んで冒険しているみたいです。ことばがなくても、ステキなものは、ステキなのです。



『おなかの花園』
 ケイティ・ブロスナン/作
 滝本安里/訳
 [化学同人]

細菌の働きについて、分かりやすく描かれた絵本。免疫力を高め、感染症を防ぐ免疫システムや、体に悪影響を及ぼす細菌の事など、体の中で起こっている様々な現象を学び、自分にとっての良い腸内環境『おなかの花園』を目指しましょう！



『14ひきのびくにつく』
 いわむらかずお/さく
 [童心社]

幼稚園くらいの時、当時はすごく気に入って毎日読んでいました。14匹のかわいいねずみの家族がピクニックに行く様子が描かれています。ワイワイと準備をしたり、春の景色を見ながら楽しそうに出かけているところが好きです。大家族っていいなあと思いました。



『ささやき貝の秘密』
 ヒュー・ロフティング/作
 山下明生/訳
 [岩波書店]

『ドリトル先生』で有名なヒュー・ロフティングの幻の名作。日本では1996年に出版されました。中世騎士物語風に描かれた冒険ファンタジーで、登場人物とともに夕暮れの魔法の世界へ引き込まれます。ロイス・レンスキーの挿絵も魅力です。



『100万回生きたねこ』
 佐野 洋子/作・絵
 [講談社]

飼い主達からの愛情を何とも思わず100万回生まれ変わった主人公の「ねこ」がある白ねこの出会いで...この本から自分の人生を生きるとはどういうことなのか考えさせられました。最後は「ねこ」と一緒に泣いてしまいました。



『怪盗クイーンはサーカスがお好き』
 はやみね かおる/作
 K2 商会/絵
 [講談社]

あなたがもし、謎と浪漫・冒険が好きでしたらおすすめ。怪盗クイーンと助手のジョーカー、そして世界最高の人工知能RDと一緒に、物語の世界を楽しんでください。大人になった今でも変わらず、ハラハラドキドキ楽しめる1冊となっています。



『シートン動物記 オオカミ王ロボ』
 E・T・シートン/原作
 千葉茂樹/編訳 姫川明月/絵
 [学研教育出版]

小学2年生の時に、初めて手に取った思い出の本です。読み進めるうちに、色々な動物が好きになりました。みなさんも同じような気持ちになってくれると嬉しいです。